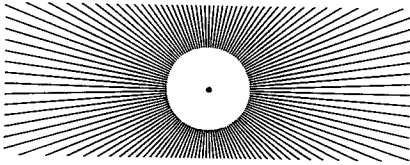


エクアドルの企業グループ

ノボア・グループの事例



新木 秀和

はじめに

ノボア・グループ (Grupo Noboa) はグアヤキル市を本拠とするエクアドル最大の民族系企業グループである。バナナ輸出国として知られる同国でバナナをテコに勢力を拡大して「バナネラ・ノボア」の異名をとり、現在では国内の政治経済や世界のバナナ業界でかなりの影響力を有している。しかし、同グループに関する公開情報は限られ、関連研究も少数かつ断片的で創業者の伝記もないため、その実態には不明な点が多いのが実情である。とはいえ、同グループを俎上に乗せることはエクアドル経済を企業というミクロの視点から捉える機会となるだけでなく、従来もっぱら中米の「バナナ帝国」に関連して論じられてきたラテンアメリカのバナナ産業をより広い視野から検討する出発点ともなろう。かかる観点から本稿では、バナナ産業との関連を考慮に入れつつノボア・グループの発展と現状に検討を加えたい。

1 グループの創業

1. 創業者

グループの創業者で会長を務めるルイス・ノボア (Luis Noboa Naranjo) は、1916年アンデス高地の町アンパトで鉄道会社従業員の貧しい家庭に生まれた。エクアドル最大の資産家となる彼も当初は靴磨き、新聞売り、沖仲仕などの職を転々としたといわれ、「たたき上げの男」(self-made man)^{*1}と評されている。詳しい経歴は明らかにされていないが、家系をたどると、祖父の代までグアヤキルの上流階級に属し(4代前はディエゴ・ノボア大統領)、父親の代に下層へ転落したことが判明する。上記の伝説的な世評に比べこの事実はあまり知られていない。また、大地主・実業家マルコス (Juan X. Marcos) の支援を受けて事業を始めるとともに同人の事業を継承した^{*2}。少なくともこれら2点(出自と後援者の存在)は、ノボアが有力家族と人的関係を築きながら事業を軌道に乗せていくうえで有利に働いたと考えられる。

もう1人の中心人物は副会長のエンリケ・ボンセ (Enrique Ponce Luque, 1920年生まれ) である。グアヤキルの名家に生まれた彼は、ノボアの義理の弟かつパートナーとして当初より事業に参画しただけでなく、国会議員や閣僚として政治活動を推進しつつ義兄が事業に専念できるよう支援してきた。かくして、ノボア、ボンセ義兄弟を核とする同族グループは海岸部の伝統的の有力家族(アロセメナ、フェブレス=コルデロ、イカサ、エスト

ラダなど)との関係を深め、それら伝統勢力を糾合しつつ企業グループの土台を築いていった*3。

第1表 エクアドルのバナナ輸出と
ノボア・グループのシェア

年	バナナ輸出量 (1,000トン)	EBNのシェア (%)
1948	99.6	N.D.
1950	169.6	N.D.
1955	612.6	N.D.
1960	895.1	9.69
1963	1,014.3	16.84
1965	874.6	20.12
1970	1,246.3	22.98
1975	1,348.5	41.14
1977	1,317.7	46.62
1980	1,290.6	40.22
1983	910.0	39.59
1989	1,648.9	30.40

(注) EBN はノボア・バナナ輸出会社の略称。

(出所) 1983年までの数値は, Carlos Larrea, ed., *El banano en el Ecuador*, Quito, 1987, pp.69, 74. また89年の輸出量は FAO, 同じく EBN シェアは, *Análisis semanal*, 22 de mayo de 1990.

2. 創業期のエクアドル経済

エクアドルにおける一次産品輸出経済は1870年代から急増するカカオ輸出を中心に展開し, エロイ・アルファロ (Eloy Alfaro) の自由主義革命 (1895年) もあってグアヤキルなど海岸部の輸出・金融部門が伸長した。こうして, 資本を蓄積し政治力を強めたグアヤキル勢力がノボア・グループの母体となっていくのであり, その資金的基盤は有力民間銀行 (Banco Comercial y Agrícola など, 1920年代以降は La Previsora および Descuento の 2 行) によって整備された。

しかしその後, 1920年代までにカカオ輸出ブームは終焉し, 世界恐慌を迎えて輸出不振に陥ったエクアドルでは, 政治が不安定化してベラスコイバラ (Velasco Ibarra) の台頭をみる。ルイス・ノボアが事業を開始したのはまさにそうした30~40年代の不況期であった。この時期は次のバナナ・ブームへ向かう移行期・端境期として位置づけられ, 実際, 40年代末にはバナナ・ブームが発生し, ノボアらにとって追い風となる。次に, バナナ産業との関連に焦点をあてながらグループの発展過程をたどろう。

2 バナナ・ブームとグループの発展

1. バナナ産業の発展

エクアドルにおけるバナナ産業はガロ・プラサ (Galo Plaza) 政権期 (1948~52年) を境に急激な発展をみせた。この要因として指摘できるのは, 世界的な需要増の基調にあって中米のバナナが疫病で大打撃を受け, これがエクアドルに有利に働いたこと, 同国政府が栽培・輸送などのインフラ整

備に積極的な公共投資を行なったこと, などである*4。バナナ輸出量を見ると, 48年には10万トンそこそこであったものが, 60年代までに100万トンを超える水準へと大幅に拡大し, 70年代を通じて同水準が維持されている (第1表)。

こうしたバナナ・ブームがノボア・グループの形成と発展を促したのだった。グループの成立年は定かでないが, バナナ輸出関連持株会社の設立を出発点とみなすのは妥当であろう。それは1946年末, 30歳のノボアが設立したノボア・バナナ輸出会社 (Exportadora Bananera Noboa S. A., 以下 EBN。当初の社名は Compañía Comercio y Transporte だったが58年現社名へ変更) である。その後, グループの基本的利害はバナナ, カカオ, コーヒーなど熱帯一次産品の輸出取引ないし加工に集中

し、なかでもバナナ輸出が大きな比重を占めた。

2. 多国籍企業との関係

19世紀末より世界のバナナ産業は米系多国籍企業3社、すなわちユナイテッド・フルーツ(UF)社(現ユナイテッド・ブランズ社)、スタンダード・フルーツ社(現キャッスル&クック社)、およびデルモンテ社の寡占下におかれてきた。では、ノボア・グループはこれら3大バナナ資本といかなる関係を築いてバナナ部門に参入していったのだろうか。このことはエクアドルにおける3大バナナ資本の進出状況と関連がある。同国ではそれら多国籍バナナ企業の影響力は中米諸国におけるほど大きくなく、その分だけEBNなど民族系企業の比重が大きいという特徴を指摘できる*5。UF社の場合、エクアドル進出は1930年代半ばと比較的遅く、またバナナ輸出に占める同社のシェアは60年代初頭の20%台を最高に以後漸減している。

EBNは当初UF社の保護下で操業を開始し、1956年に独立したのだが、以後も緊張をはらむ協力関係を維持してきたとみられる。二次的な市場を輸出先としたり低価格で品質が多少劣るバナナの輸出に特化することで、3大資本との競争を避けようとしてきたからである*6。エクアドルのバナナ輸出に占める同社のシェアは次第に拡大して77年には約47%に達し、以後も30~40%程度を維持している(第1表)。こうして、EBNは同国バナナ輸出の最大手となっただけでなく、特筆すべきことに、国際的にも3大資本に次ぐ世界第4位の地位を占めるまでに成長したのだった。

一方、バナナ業界におけるノボア・グループの影響力については、エクアドルがUPEB(中米諸国を中心とするバナナ輸出国連合、1974年結成)に参加しない背景にはグループの意向が働いており、また同機関へ参加する可能性を交渉カードに使うこ

とで米国市場などへの参入をかなり有利に進めている、という指摘がある*7。

3. グループのバナナ貿易

ノボア・グループは米国、アルゼンチン、オランダ、ベルギー、フランス、イタリア、それに日本といった各国に事務所を構えるとともに、それら以外の諸国を含む世界各地との間でバナナの直接的な輸出取引を行なっている*8。

これに関連してグループの対日バナナ貿易に言及しておこう*9。対日バナナ輸出は1959年の東京進出(エンリケ・ポンセの仲介でEBNの子会社K.K. Pacific Fruit Ltd.設立)をもって翌60年から開始され、その後現在までエクアドル産バナナのほとんどは同社の手で輸入されてきた。63年の輸入自由化を経て、70年代初頭に同国産バナナが日本の店頭を賑わしたことは周知のとおりである。しかし70年代末からは開発輸入を通じたフィリピン・バナナ*10や台湾バナナに圧倒されてきた。また85年から数年間はフェブレス政権(84~88年)の下で、日本車(パジェロ、ギャラン)輸入とのバーターでバナナ輸出が伸長した。ノボアのバナナは国際的にはBonitaなどの名で知られるが、日本ではEnanoという名で販売されている。

3 グループの構造

エクアドルの企業グループについては資料上の制約から、企業間の株式所有関係や役員兼任に関する情報は把握が困難であるため、次では傘下企業および主要人物について概観するにとどめたい。

1. 傘下企業

フィエロの研究によると、彼が検出した52の企業グループのうちノボア・グループの傘下企業数

第2表 エクアドルの5大企業グループ（企業数による順位、1986年）

	グループ名	本拠地	主な業種	企業数	売上高 (100万スクレ)	外資の比率 (%)
1	Noboa	G～全国	貿易, 食品	87	54,870	26.4
2	Filanbanco	G～全国	金融, 繊維	77	18,388	3.4
3	Cofiec	Q～全国	金融, 食品	63	29,822	21.4
4	Proinco	Q	サービス, 食品	60	45,075	21.4
5	Pacifico	G～全国	金融	60	27,390	26.8

(注) 本拠地については、Gがグアヤキル、Qがキトを示す。

(出所) Luis Fierro, *Los grupos financieros en el Ecuador*, Quito, 1991, p.250.

は87社で*11、第2位のフィランバンコ・グループ（別名イサイアス・グループ。レバノン・シリア系移民に由来するグアヤキルのグループで、企業数は77社）を抑えてエクアドル最大となっている（第2表）。ただし、留意すべきことに他の企業グループとの差が決定的に大きいわけではなく、たとえば、上記のフィランバンコは最近の急成長ぶりが著しく、またキト市の諸グループ（第3位のコフィエク、第4位のプロインコなど）にしてもアンデス高地部では俄然大きな力をもっている。

さて、ノボア・グループの中軸企業がEBNで、その事業の中心がバナナなど熱帯一次産品の輸取引にあることは確かだが、それ以外の部門への進出も顕著となっている（第3表）。こうした経営の多角化は垂直・水平的な連関をもつ分野への進出・拡大を通じて実現されてきた。農業、製造業、金融業、サービス業などの各種業種についてその経緯をたどっておこう。

第1にバナナ部門についてみると、EBNという輸出面のみならず、1960年代以降は10数社にのぼる自前のバナナ・プランテーション（会社）を所有して生産部門への進出も目立っており、EBNが輸出するバナナの3割余りは自社生産という。また60年代初頭には、バナナ輸出に必要なカートンの製造を行なう三つの会社を設立している。さらに、

中米バナナに比べてノボアが有利に立った重要な要因の一つだが、エクアドル政府の保護下でバナナ輸送用の冷凍船が提供され、しかもその燃料が非常な低価格で購入できたのだった*12。

第2に製造業をみると、カカオ豆やコーヒー豆の加工に加え、石鹼、製粉、製塩、製油（食用油）などの分野で国内大手の会社を所有する。

第3に貿易・輸送業はグループの主導部門となっている。

第4に金融業ではグループ独自の銀行は少数だが、業界で有力な第5位のパシフィコ・グループと密接な関係をもつことが知られている。

第5にマスコミ関係では、グアヤキルのテレビ、4チャンネルがグループの傘下にある。

さらに第6として、外資との緊密な関係がうかがえ、タックス・ヘブンのバハマやバーミューダを拠点にもつ企業などからの資本参加が多い点は注目に値する。ただシナバロによると、外貨運用や経営戦略の一環としてグループが自己資本で設立した企業がそれらには含まれるとみられ*13、厳密な意味での外資と区分する必要がでてくる。

2. 人的結合

グループの会長および副会長についてはすでにふれたが、これに次ぐ第3の地位（第2副会長）は

第3表 ノボア・グループの主な傘下企業 (抜粋, 1986年)

企 業 名	設立年	所在地	売上高 (100万 スクレ)	関 連 外 国 企 業	出身地域	外資 比率 (%)
<ノボア=ナランホ・サブグループ：54社>						
<農業 (バナナなど)：15社>						
Agrícola Bananera Clementina S. A.	1980	G	2,028	Pacific Fruit Ltd.	バーミューダ	25.0
Bananera Las Mercedes S. A.	1976	G	325	Core Investment Ltd.	パハマ	48.9
Cía. Agrícola Bananera del Ecuador	1969	G	165	Core Investment Ltd.	パハマ	0
Cía. Agrícola La Julia S. P. R.	1967	M	1,607	Core Investment Ltd.	パハマ	30.0
Cía. Agrícola Loma Larga S. P. R.	1966	G	166	Core Investment Ltd.	パハマ	0
Cía. Agrícola Martinica S. A.	1964	G	208	Core Investment Ltd.	パハマ	0
Industria Bananera Alamos S. A.	1979	G	0	Core Investment Ltd.	パハマ	96.0
La Familiar S. A.	1938	G	290	- - -	-	0
<食品：8社>						
Ecuajugos S. A.	1977	G	446	Indecsa = Nestlé Ec.	スイス	0
Industrial Molinera S. A.	1945	G	4,413	Core Investment Ltd.	イギリス	99.9
Molinos Poulitier S. A.	1980	L	1,282	Euramerican Trading Co.	バーミューダ	100.0
Sociedad Agrícola e Industrial San Carlos S. A.	-	G	3,094	Seven Corp. of Panama, United Chemical など4社	パハマ	10.1
Colacao (Cía. de Elab. de Cacao C. A.)	1976	G	7	Euramerican Trading Co.	バーミューダ	50.0
Indecsa (Indust. de Chocolates S. A.)	1979	G	1,378	Euramerican Trading Co.	バーミューダ	49.5
Colcafé (Cía. de Elab. de Café C. A.)	1977	G	2,340	Euramerican Trading Co.	バーミューダ	49.2
<繊維：1社>						
Interamericana de Tejidos C. A.	1974	G	133	- - -	-	0
<紙・カートン：3社>						
Papelería Nacional S. A.	1961	G	1,588	- - -	-	0
Industria Cartonera Ecuatoriana S. A.	1960	G	4,316	Pacific Fruit Ltd.	米 国	29.6
Macarsa (Manufacturas de Cartón S. A.)	1963	M	1,948	St. Regis Paper Co.	米 国	100.0

ノボアの実子(男子はルイスとアルパロの2人, 女子は4人)ではなく, 女婿のイシドロ・ロメロ (Isidro Romero Carbo) が占めている*14。彼はいくつかの会社を経営する実業家である。

第3表におけるサブグループはグループの構成ファミリーに対応する。まず, ノボア=ベハラノ (Noboa Bejarano) 家はノボア=ナランホのいとこの家系で, 表の2企業はともに業界トップに位置する。次いで, フェブレス=コルデロ (Febres Cordero) 家はノボアと2代にわたって親密な関係

を維持している。後述のように, レオン・フェブレス=コルデロ (León, 1931年生まれ, 91年に離婚した夫人はノボアの前妻の姪) は実業家 (製粉会社社長などを歴任) かつ有力政治家であり, 84年の政権掌握後はノボアから独立して自己グループの結束を固める傾向にあるという。他方, エストラダ (Estrada) 家は銀行家の家系だが, 最近は勢力を弱めている。

フェブレス=コルデロ家と並んで重要なのはアロセメナ (Arosemena) 家であり, ノボアの後妻は

<貿易・輸送：11社>						
Exportadora Bananera Noboa S. A.	1946	G	7,829	Core Investment Ltd.	バハマ	49.0
Ultramares Corporation C. A.	1963	G	3,217	Euramerican Trading Co.	バーミューダ	12.2
Naviera del Pacífico C. A.	1974	G	1,280	- - -	-	0
<不動産：12社>						
Inversiones Ecuaneira S. A.	1977	G	-	Industrial Molinera S. A.	-	100.0
<サービス (テレビ局)：1社>						
Telecuatro Guayaquil C. A.	1977	G	94	- - -	-	0
<金融：3社>						
Banco de Crédito e Hipotecario	-	G	3,490	Finan. Sudamericana Ltd.	バーミューダ	49.1

<<ノボア=ベハラノ・サブグループ：5社>>

Fábrica de Aceites La Favorita S. A.	1941	G	6,198	- - -	-	0
Jabonería Nacional S. A.	1918	G	4,264	- - -	-	0

<<フェブレス=コルデロ・サブグループ：8社>>

Ecuasal (Ecu. de Sal y Prod. Químicos)	1961	G	483	Morton Norwich Prod. Inc.	米 国	55.0
Febres Cordero Cía. de Comercio S. A.	1966	G	1,439	- - -	-	0

<<エストラダ・サブグループ：9社>>

Frescamar S. A.	1972	G	59	Morrison International	パナマ	48.3
Ecuavía Oriente S. A.	1967	G	398	Petroleum Helicopters	米 国	40.7

<<アロセメナ・サブグループ：5社>>

Indeta (Instrument Descartables S. A.)	1979	G	141	Bic Incorporated	カナダ	49.3
--	------	---	-----	------------------	-----	------

<<ネボア・サブグループ：6社>>

Industrial Procesadora Santay Cía. Ltd.	1979	G	451	- - -	-	0
---	------	---	-----	-------	---	---

(注) 所在地については、Gがグアヤキル、Mがマチャラ、Lがラタクンガを示す。

(出所) Luis Fierro, *Los grupos financieros en el Ecuador*, Quito, 1991, pp.254-257, 533-550/CEPAL, *La presencia de las empresas transnacionales en la economía ecuatoriana*, Santiago, 1984, pp.31-41より作成。

この一族から出ている。バスクに発してパナマに定着した同家は、その後グアヤキルにも根づいてエクアドルで最も伝統的な家系の一つとなっており、ノボア・グループに関与する3人の大統領(アロセメナ=トラ, アロセメナ=モンロイ, およびアロセメナ=ゴメス)をはじめ政治家や銀行家などの有力者を輩出してきた^{*15}。さらに、不動産業への進出が顕著なネボア(Nebot)家は、フェブレス家などと密接な関係を有しており、92年大統領選挙で

ドゥランと競ったハイメ・ネボア (Jaime Nebot Saadi, 1946年生まれ)はフェブレスの子飼いとされる有力政治家である。

4 グループの影響力

ノボア・グループは国内の政治経済に大きな影響力をふるってきた。決定的な事実は確認しがたいが、以下3期に分けて整理しよう。

1. 60年代まで

代表的な例をあげると、グループととくに密接な関係をもったのはアロヨ政権 (Arroyo del Río, 1940～44年)だといわれる。また第四次ベラスコ政権期(60～61年)には、大統領に密着したエンリケ・ボンセが国防相および内務相代行を歴任するとともに、小麦粉の輸入関税問題に絡んでは、その大手輸入業者であるノボアが反対運動の先頭に立ったことが知られている*16。

2. 70年代における軍政との対立

ルイス・ノボアは『ビスタソ』(エクアドルの半月刊誌, 1979年2月16日号)とのインタビューでロドリゲス＝ララ軍事政権 (Rodríguez Lara, 72～76年)を最悪の政府だと名指した*17。この見解は70年代における軍政と財界の対立を象徴している。同政権はペルーのベラスコ政権型の社会改革を指向して石油資源の国家管理や(第二次)農地改革に着手し、資本家層や地主層との対立を深めたが*18、反対派の急先鋒はノボア・グループを初めとするグアヤキル勢力だった。逆にいうと、伝統的支配層を敵視する軍部改革派にとって同グループは恰好の標的であり、国家機構の拡大や政党の非合法化などを通じて民間の発言力が制限されるにつれ、両者の対立が激化していった。したがって、最終的にロドリゲス＝ララの「改革」が挫折したことは、70年代後半から財界の力が再び伸長していく契機となったのである。

3. 民政移管後の影響力行使

1979年の民政移管は政党(キリスト教社会党PSC)、会議所(グアヤキル商業、工業各会議所)、経済政策の決定機関(中央銀行、通貨審議会)それに経済閣僚ポストなどを通じてグループの影響力が内政に直接間接に反映される機会をもたらした。

その形態は次の二つに区分できよう。

(1) 直接的参加：フェブレス政権

ロルドス、ウルタード両政権を経て1984年に発足したフェブレス政権は、先述のように大統領自らがグループの有力メンバーであり、ノボアおよびパシフィコ両グループから経済閣僚の多くが登用された。この詳細は山口氏の分析*19に譲るが、銘記すべきは、同政権が86年8月に断行した徹底的な自由主義的経済政策が、輸出部門を機軸とするノボア・グループなどグアヤキル勢力の利害に適った政策だった点である。

(2) 間接的参加：ボルハおよびドゥラン政権

次のボルハ政権(Borja, 1988～92年)はアンデス高地部の中間層が基盤であり、グループの影響力行使は前政権期ほど直接的な形はとらなかった。ただし、グアヤキルの反政府勢力を率いるフェブレス前大統領から大きな政治的圧力が加えられ、また他の理由も重なってグアヤス県知事(同市に対する政府統治の要職)は何度か交替し、3人目には90年オスバルド・モレスティナ(Osvaldo Molestina Zavala, ノボアの女婿の1人)が抜擢された。

1992年に発足したドゥラン政権(Durán Ballén)の場合も、基盤となる経済勢力はアンデス高地部の企業グループ(大統領が属するプロインコなど)であるが、いくつかの重要ポストはノボア・グループにも提供されている。元来シクスト・ドゥランはキリスト教社会党の創設者の1人、かつレオンの姻戚(弟セサルはレオンの姉と結婚しているのも両者はスペイン語でいう *concuñados*)としてフェブレス＝コルデロ家とは密接な間柄にある。その後、党内対立を機に新政党PUR(共和連合党)を結成して政権の座についたもので、彼らの個人的関係は複雑だが、今回グアヤキル市長に就任したのが他ならぬレオン・フェブレス＝コルデロであるため、彼を通じてノボア・グループが政府に影響力を行

使していくことが十分考えられる。

おわりに

エクアドルの企業グループについての研究はまだ始まったばかりである。情報入手は容易ではないが、今回とりあげたノボア・グループのような興味深い事例は少なくないし、同グループについても今後より詳細な検討が必要であろう。また、エクアドルのバナナ産業に関するまとまった分析は機会を改めて行ないたいと思う。

最後に、エクアドルのみならずラテンアメリカ全体のバナナ産業をとりまく最近の注目すべき動向を述べて結びとしたい。それはECとの間で表面化しているバナナ通商問題で、これを「バナナ戦争」と呼ぶ向きもある*20。

ECは市場統合でラテンアメリカ産バナナが無制限に流入することを強く警戒し、1993年2月12日の農相理事会で、同地域からの輸入に年間200万トンの上限を設定し超過分には150～170%の関税をかけるという共通バナナ政策(92年12月の決定)を批准、来る7月から実施することに決定した。こうした動きを受けて域内バナナ生産7カ国(およびオブザーバー2カ国)は2月11～12日にグアヤキルで「バナナ・サミット」を開催して対応策を協議し、ガット・ウルグアイ・ラウンドに逆行する制限措置の撤廃を求めた。実際、同措置は域内諸国に大きな打撃を与えるとみられ、UPEBの推計では、93年のみで3.5億～5億ドルの外貨収入が失われ、向こう3年間では17万4000人ももの労働者が失業すると予測されている。その後5月末現在まで両者の対話は平行線をたどっているが、ガットと絡んで問題が複雑化しつつあり、またEC内部にも異論はあって、旧植民地産バナナの優遇を重視し同措置の断行を主張するフランス、スペインなど

にドイツなどが対立している。

一方、ECの基本方針にもはや変更はないとみる業界筋の反応は早く、新たな輸出先としてアジア市場を開拓しようという動きも目立ってきた。最近コスタリカが中国への輸出を打診し対日輸出を開始した*21他、日本では再びエクアドル産バナナの輸入が急増しており、1986年に7.5%と低迷したシェアが92年には19.6%(台湾産の8.6%を抜いてフィリピン産の70.3%に次ぐ)まで伸びている*22。93年からは日本の商社が同国産バナナの本格輸入に乗り出したと伝えられ、ノボア・グループとの関係が注目される。またすでに、別の商社はベトナム、インドネシアなどアジア新産地からの開発輸入に着手しており*23、日本市場をめぐる競争が激しさを増すとともに供給過剰状態を招きつつある。

このように今やバナナの国際市場は変動期を迎えている。ECが提起した問題はラテンアメリカのバナナ生産国はもちろん、国際資本やノボア・グループなどの取引業者、そして輸入先の日本など先進国にも波及し始めており、その結果、従来のバナナ地図が大きくぬりかえられる可能性を秘めている。

- * 1 Fierro, Luis, *Los grupos financieros en el Ecuador*, Quito, CEDEP, 1991, p.253/Hanson, David, "Political Decision Making in Ecuador: The Influence of Business Groups," Ph. D. Dissertation, University of Florida, 1971, pp. 32, 246.
- * 2 Fierro, 同上書, 258ページ/Hanson, 同上論文, 68, 345ページ。
- * 3 Navarro, Guillermo, *La concentración de capitales en el Ecuador*, Quito, Ediciones Soliterra, 1976, p. 87, ではこれら伝統家族から成るグループを「グアヤキルのスーパー・グループ」と呼んでいる。

なお、家族名／姓が複数の場合は名前と混合しないように「=」でつなぐ。

- * 4 若槻泰雄『バナナの経済学』玉川大学出版部 1976年 138ページ。
- * 5 May, Stacy; Galo Plaza, *The United Fruit Company in Latin America*, Washington D. C., National Planning Association, 1958, p.170 /FAO, *La economía mundial del banano, 1970-1984*, Rome, 1986, pp.20-21.
なお、EBN に次ぐ民族系輸出業者は中国系ウォン (Segundo Wong Mayorga) の Reybanpac 社 (Rey Banano del Pacífico C. A.) である。
- * 6 Larrea, Carlos, ed., *El banano en el Ecuador: transnacionales, modernización y subdesarrollo*, Quito, Corporación Editora Nacional, 1987, p.58.
- * 7 エクアドル農牧省関係者への筆者のインタビュー (1992年8月) による。
- * 8 Grupo Noboa, “Grupo Noboa/Noboa Group: sector industrial,” Guayaquil, 1982. (パンフレット)
- * 9 以下の記述はグループ関係者から筆者が入手した情報による。
- * 10 詳しくは、鶴見良行『バナナと日本人』岩波新書 1982年を参照。
- * 11 一方、CEDIS, *Los grupos monopolísticos en el Ecuador*, Quito, 1986, では69社が指摘されている。

- * 12 Larrea, 前掲書, 97および100~101ページ。
- * 13 Navarro, 前掲書, 95ページ。
- * 14 Grupo Noboa, 前掲パンフレット。ただし、ノボアの後継者が女婿ロメロか実子か、あるいは第三者かという点は未確認である。
- * 15 Arosemena, Guillermo, *Los Arosemena: Historia de una familia de tradición guayaquileña*, Guayaquil, 1988, による。
- * 16 Hanson, 前掲論文, 270~271ページ。
- * 17 Conaghan, Catherine, “Industrialists and the Reformists Interregnum: Dominant Class Behavior and Ideology in Ecuador, 1972-1979,” Ph. D. Dissertation, Yale University, 1983, p.205での引用。
- * 18 Conaghan, 同上論文, および Conaghan, *Restructuring Domination: Industrialists and the State in Ecuador*, University of Pittsburgh Press, 1988, を参照。
- * 19 山口豊「現代エクアドルの政治経済とその問題点」(『イベロアメリカ研究』第XI巻第2号 1989年) 35~38ページ。
- * 20 以下の経緯は *La Jornada* 紙(メキシコ), 1993年3~5月中の記事(経済面)に基づく。
- * 21 *La Jornada*, 16 de mayo, 1993, p.32による。
- * 22 『日本経済新聞』1993年4月7日の記事。
- * 23 同上紙 1993年3月8日の記事。
(あらか・ひでかず／筑波大学大学院)